

平成 2 9 年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）

赤穂市立有年中学校

1 本年度の学校経営方針

◆学校教育目標 『正々堂精神』を『誇り』とし ところ豊かな生徒の育成』
～『志』高く、実行力ある、活力ある学校をめざして～

◆基本方針

- (1) 「個」をつなぎ、「考」を紡ぎあう『学び』から、さらなる高みを求める態度を養う。
- (2) よりよい生き方を目指し、『夢』と『志』を持つ豊かな人間性を培う。
- (3) 歴史と伝統ある「有年中の『誇り』」を胸に、地域色豊かな教育環境の中で、「ふるさと有年」の気概に満ちた人づくりに努める。

2 本年度の学校努力目標

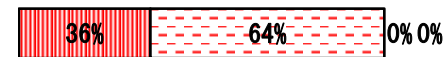
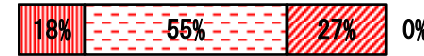
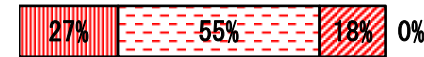
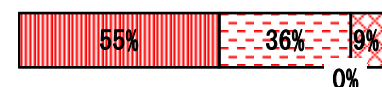
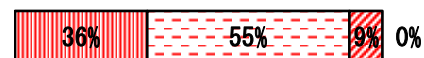
- (1) 「確かな学力」を育成する。〔頭づくり〕
- (2) 「豊かな心」を育む。〔心づくり〕
- (3) 「すこやかな体」を培う。〔体づくり〕
- (4) 『誇り』を意識し、夢と志を大切に、よりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を養う。
- (5) 特別支援教育の充実を図る。
- (6) 魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。

<調査人数> 11

3 自己評価結果（A～D） A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

学校努力目標

NO	評価項目	A	B	C	D
1	生徒にわかりやすい授業を行っている。	3	7	1	0
		27%	64%	9%	0%
2	授業の改善のための工夫をよくしている。	4	6	1	0
		36%	55%	9%	0%
3	質問は大いに歓迎し、笑顔で対応している。	7	3	0	0
		70%	30%	0%	0%
4	生徒の考えをよく聞いて、ほめることをしている。	6	4	0	1
		55%	36%	0%	9%
5	進路についての話をよくしている。	3	6	2	0
		27%	55%	18%	0%
6	災害が起きたときを想定し、避難方法を具体的に話している。	4	2	4	1
		36%	18%	36%	9%
7	生徒は毎日喜んで登校している。	2	6	3	0
		18%	55%	27%	0%
8	楽しいクラスづくりに取り組んでいる。	2	7	2	0
		18%	64%	18%	0%
9	自他共に大切に思い、楽しく生きることを指導している。	3	7	1	0
		27%	64%	9%	0%
10	「友」の大切さ、ありがたさ等をよく話している。	4	7	0	0
		36%	64%	0%	0%



総合的な学校関係者評価

- 少人数を生かした丁寧な指導をありがとうございます。回覧板などを利用して地域へ発信していただけるので、学校も様子もよくわかり、子供達に声をかけやすいです。
- 少人数の学校として、家庭や地域とのつながりを大切にし、行事等にも関係者が参加し、共に育成に参加していることは評価できると思います。地域での生徒は住民との挨拶もしっかりでき、高校生になっても続いています。このことを見ても学校での取組の成果が表れていると思います。
- この少人数の中でしっかりとリーダーシップがとれているように思います。また、この生徒達の変化を感じ取ると共に、少人数ゆえの大変さもあると思います。毎朝、校長先生の子供達への挨拶、本当にご苦労様です。また、子供達の挨拶も地域の方々から評価を得ておりました。先生と生徒の信頼は毎日の積み重ねだと思つづくと思います。生徒達の3年後、5年後と将来を見据えた日々の学習、生徒指導と、親身に行うことで、この有年中学の良さを伝えて言ってほしいと思います。
- 有年人として何でも誰とでも思っていることを言い合える、人に対して優しく思いやりをもてる子供に育ててほしい。少人数だからこそできる異学年集団の充実、また、その中での慣れにより、マンネリ化の取組、人間関係の活性化等、本当に友達の大切さをお互い意識づけさせえてもらえればと思います。いくら少なくとも有年の子は有年で守る。学校・家庭・地域と頑張っていきましょう。
- 少人数の学校として、家庭や地域とのつながりを大切にし、行事等にも関係者が参加し、共に育成に参加していることは評価できると思います。地域での生徒は住民との挨拶もしっかりとでき、高校生になっても続いています。このことを見ても学校での取組の成果が表れていると思います。

学校関係者評価

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
◎	◎	○家庭学習を進めるために家庭との連絡を密にしていきたい。 ○少人数だからできる、有年でしかないスタンスで、生徒の目線で公平に見つつ、その中で偏りがいないか、生徒達がより一層学び合いの学習活動ができるように努力してほしい。
◎	◎	○先生方との良好な関係の中で、何でも相談できるような信頼関係を築いてください。 ○幼小とずっと一緒にほとんど変化がない。慣れた中での規律を当たり前のすべきことを中学校できっちり確認、自覚させてほしいです。

分析と改善の方策

※「確かな学力」を育成する。〔頭づくり〕

●生徒たちが1時間の学習内容と流れを確認しながら、余裕をもって学べるよう、各授業担当者が授業毎に「めあて」を明示(見える化)した授業を構築する。

●家庭学習の習慣を確立させるべく、生徒が自分から机に向かう姿勢を養うよう家庭との連携を強化する。

◆場面に応じて、生徒同士で学び合い、気づいたことを個々人がより深めていける協同学習のあり方を模索しつつ、授業改善を進めていく。

◆3年間を見通した進路学習の方策を確立し、生徒の夢や目標達成への努力を続けるキャリア形成へ導く。

◆毎日の学習タイムや週末課題への取組から、基本的学習項目の定着と自発的な学習習慣の確立を促す。

※「豊かな心」を育む。〔心づくり〕

●挨拶や返事、必要な言葉をきちんと話すなど、日常生活の中での実践と道徳授業での学びを両輪として、「あたたかさ」や「思いやり」のある心を育てる。

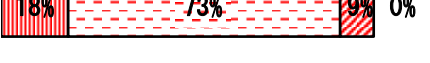
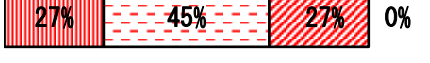
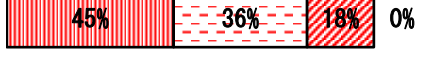
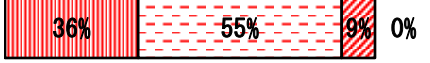
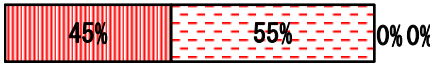
●教員との良好な関係の上に立つ信頼関係の構築に向け、教員からのより一層の働きかけを心がける。

◆学級討議や生徒会活動を通して、有年中生としての自覚や仲間意識を高めることの意義を理解させる。

◆小規模校の特性を生かした少人数活動や異学年交流により多く取り組ませ、自分の気持ちを的確に表現し、かつ相手の気持ちを正しく理解する感性を養う。

◆生徒の「自立」を促しつつ、適時の支援を行ったり、必要な声かけを続けたりしていくことで、自尊感情を高め、自己有用感をもたせる土台を作る。

NO	評 価 項 目	A	B	C	D
11	生徒が安心して生活できる居場所づくりを進めている。	5	6	0	0
		45%	55%	0%	0%
12	生徒の話を静かに優しく聴くことを大切にしている。	6	4	1	0
		55%	36%	9%	0%
13	生徒がいじめや暴力のない学校生活が送れるよう取り組んでいる。	6	5	0	0
		55%	45%	0%	0%
14	努力することの大切さを指導している。	5	6	0	0
		45%	55%	0%	0%
15	間違った行動に対して、厳しくわかりやすく指導している。	4	6	1	0
		36%	55%	9%	0%
16	思いやりの心や命を大切にする学習を機会あるごとに指導している。	5	4	2	0
		45%	36%	18%	0%
17	道徳の時間では、資料を通して自分のことを振りかえる時間にしている。	3	5	3	0
		27%	45%	27%	0%
18	「正々堂精神」で行動することのすばらしさを指導している。	2	8	1	0
		18%	73%	9%	0%
19	「早寝・早起き・朝ごはん」運動の意味を大切に、生徒を啓発している。	1	6	4	0
		9%	55%	36%	0%
20	部活動などで、生徒が体を動かすことができるよう工夫している。	2	8	1	0
		18%	73%	9%	0%
21	部活動で、連帯感、成功感を味わわせ、興味を持たせている。	2	8	1	0
		18%	73%	9%	0%
22	部活動では、「技」だけでなく、心の成長を大切にしている指導を行っている。	2	6	3	0
		18%	55%	27%	0%
23	「気づき、考え、行動する」を意識した、生活の充実さを指導している。	3	6	2	0
		27%	55%	18%	0%



●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

分析と改善の方策
※健やかな体を培う。「体づくり」 ●食育の充実、生徒の体力・体格の向上のため、保健だより等による保護者への啓発活動や教職員の生徒への呼びかけを強化していくことが必要である。 ●校区内幼小等と連携した津波避難訓練などを通じて防災教育の充実を図り、「自分の命は自分で守る」意識を根付かせる。また、起こり得る自然災害や緊急事態にも冷静に対処できる人材育成が急務である。
※よりよい生活への自主的・実践的な態度を養う。 ●有年中の歴史や伝統を大切にした学校生活とは何かを生徒自身が考え、自らが誇りに思える自分自身を創造していくよう支援することが求められる。また、日本文化の後継者として、造詣を深める指導を行う。 ●自ら気づき、考え、行動する実践を通して、社会で通用する自立した生徒を育成し、地域から期待される人材の輩出に貢献する学校づくりを推進する。 ◆自治活動の体験の場である生徒会活動が、教員主導で、生徒の自主性を阻害してしまうことがないよう、配慮していくことが必要である。

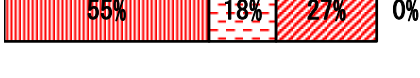
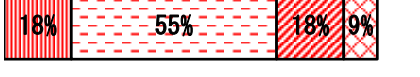
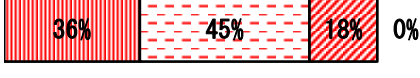
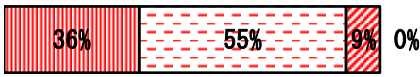
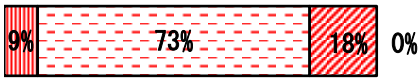
※特別支援教育の充実を図る。 ◆しぶら教室での別室(通級)指導を継続するなど、保護者や地域の教育的ニーズを反映させた特別支援教育を途切れることなく推進していく必要がある。 ◆要支援生徒への個別支援計画の作成を正しく行い、生徒の実態把握、要支援生徒の割り出し等に漏れがない態勢を整えていくことが必要である。
※魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。 ●教職員が一丸となり、毅然とした態度で安心・安全な学校運営を進めていく。また、家庭や地域への啓発活動を通じて、ネットやSNS上のトラブルの未然防止に配意し、事後は早期発見、解決への方策を探る協力態勢を整えていく。 ◆「正々堂精神」「ノーチャイム精神」等の本校の伝統を柱に、駐輪の規律や清掃活動等、日常生活の中で一人一人が自律を意識、実践するよう指導する。 ◆いじめや暴力、不登校に対する「行動計画」を保護者や地域と共有し、学校が喫緊の課題や問題に対して、家庭・地域と連携、協力できるような態勢を常に整えておく必要がある。 ◆生徒たちが、学校行事で地域の方々とふれ合ったり、地域行事に積極的に参加したりすることを通して、地域とのつながりを深め、情報発信をしていく、地域に開かれた学校づくりを具現化していく。

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
○	◎	○必ず朝食を食べる等、家庭との連携を強め、食事の大切さを学ばせてください。 ○家庭と地域よりもっともっと密着して、どんどん鍛えてください。
○	◎	○生徒会活動、行事等に生徒が自ら考え、話し合い、行動する伝統ができているように思います。来年度も更に充実させてください。 ○お互いよく知り尽くしているからという感覚を、慣れの感覚を平行にして、お互いがけじめをつけるところはつけていけるようにサポートしてほしいです。

○	◎	○小規模校であるので、支援を要する生徒には教職員全員が関わる機会が多いと思います。職員の研修等を充実し、指導にあたってほしいです。
◎	◎	○正々堂精神は他校にはあまり見られないことなのでぜひ生徒1人1人のものとして受け止められるよう続けてください。 ○地域との連携を密にするために、学校の情報を地域住民に引き続き発信してください。 ○学校・家庭・地域ともっとより一層密着していけたらと思います。何でも少しでも力になります。

N0	評 価 項 目	A	B	C	D
24	先輩・後輩をお互いに認め、尊重する学校づくりに努めている。	1	8	2	0
		9%	73%	18%	0%
25	学校行事や生徒会活動での体験活動を多く経験させ、豊かな心を醸成している。	4	6	1	0
		36%	55%	9%	0%
26	地域の行事やPTA活動に積極的に参加し、保護者地域との関係をよくしている。	4	5	2	0
		36%	45%	18%	0%
27	「あいさつ」は相手に対する思いやりを形に表したものと生徒によく話している。	2	6	2	1
		18%	55%	18%	9%
28	生徒は掃除をよくしている。	0	9	2	0
		0%	82%	18%	0%
29	駐輪がきちんとできている。	6	2	3	0
		55%	18%	27%	0%
30	一人ひとりの教育ニーズに対応した支援を推進している。	6	4	0	1
		55%	36%	0%	9%



●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

分析と改善の方策
●学校側の思いが保護者に伝わらず、指導内容や対応に不満が募り、不信感につながる場合もある。生徒たちの健全な育成という共通の目的のために、学校・保護者・地域がそれぞれの立場での責任を果たしながら、前向きに協力できる関係構築をこれからも模索していくことが大切である。 ●6年生までの学習に支援を要する生徒に配慮し、学習意欲の欠如の常態化を改善していかなければならない。 ●生徒の学力向上が「地域を捨てる学力」とならないための方策を考え、地域発展に貢献できる人材の育成に努める必要がある。 ◆有年中生の実態や地域の教育的ニーズを踏まえつつ、授業時数の確保と学校行事、生徒会行事等のバランスを考え、内容の精選を進めることが必要である。 ◆常に周囲から何かをしてもらう「待ち」の姿勢の生徒が多く見られるため、自分から他者へ働きかける「自立」した態度を育てる必要がある。 ◆南海トラフ地震等の自然災害やミサイル発射等への備えや緊急対応など、防災マニュアルを整備・活用しつつ、教職員自らが日頃から災害情報等に注意し、有年中学校が地域の拠点として機能できるよう、関係する諸問題への対応を考えていかなければならない。

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
○	◎	○子供達の成長には学校教育、両親や家族による家庭教育、地域の人々とのふれあいなど、多くの人の協力が必要です。その点では、有年中で学ぶ子供達には、学校の教育的伝統、地域の文化の伝承が重要だと思います。これらは今後もより深めていただきたいと思います。子供達の学びが「地域を捨てる学力」とならないよう、住みたい地域となるよう、住民も努力することが必要です。本来育つ地域は選べないかも知れませんが、どこで生活するかは自由であるはずですから。 ○少人数でずっと同じ環境、プラスマイナスの差が大きい部分もあり、慣れっこが生じて、前向きではない部分も出てくる。お互いの良さをひとつでも多く探して、人として認め合う心、当たり前のことを誰もが、軽くやっつけていける、言われてからではなく、自然と振る舞える生徒に大きく育ててほしいです。家庭がまず一番ですが。

自己評価における特記事項

●1時間の授業の「めあて」や「流れ」の明示化など、生徒の理解促進に効果的な取組も見られるが、授業中の生徒同士の学び合いに馴染めない生徒もあり、つまずきが予想される。当該教科担当者以外の教員も、個々の生徒の特性を大まかに把握し、指導に生かす必要がある。 ●教師の思いが保護者に伝わりにくい面もあれば、保護者の思いを学校が受け止め切れていない面もある。子どもたちの成長を願う思いは同じでも、ズレが生じることもあり、そんなときにこそ腹を据えて話し合える関係構築の努力を続けていかなければならない。 ●教職員アンケートのA+Bの割合が全体的に昨年度より下がっていることもあり、教師集団のあり方が問われている。教職員・保護者・生徒の3者がきちんとコミュニケーションをとり、率直な意見交換をするという認識を再確認したい。 ●進路指導においては、生徒一人一人の夢を大切に、将来の人生設計に役立つ知識を身につける「キャリア教育」を進めていくということを保護者や関係者にも啓発していかなければならない。 ●様々な要因から生徒同士の人間関係がうまくいっていない部分がある。丁寧な聞き取りや適切な話し合いを通して関係改善を図ると共に、これらに向けて、生徒たちの心を耕す取組をしたり、教職員の関わり方への工夫を促したりするなどの対応を考えていく。 ●新学習指導要領の実施を見据え、現指導要領からの円滑な移行のもと、学力・生活力において自立できる人物にしていくことが中学校の目的であり、それに見合う教育活動を今後も続けていきたい。

評価項目以外の来年度の課題や具体的改善方法

○来年度は更に生徒数が減るようですが、先日行われた「小地域福祉活動リーダー研修会」で発表された実践を引き続き行い、地域との連携を深めてください。 ○少人数だからできる有年ならではの特色を生かし、生徒全員に伝統への自覚をもたせ、誰にでも「有年中でよかった」と誇りをもって言えるように育ててほしいと心より願っております。学校だけでは限りがありますが、頑張ってください。
